

「前に進むために立ち止まれ」

校長 堀野 智宏

「前に進め」「前向きに行動を」「下を向かず
前を見る」「立ち止まらずに進め」

様々な場面（シーン）で、困難に負けずに、勇気
を振り絞って前に進むように叱咤激励する言葉
達です。

ヒトは情報のほとんどを前から受け取るよう
にできています。目や耳は前を向いていますし、
手足は前に進むのに適しています。つまり、こと
さら冒頭の様に「前を向け」と言われなくても、
ヒトは自然と前に向かうようにできています。

では、後ろを向いたりすることはいけない事な
のでしょうか。そうではありません。今まで自分
が歩いてきた軌跡（キャリア）を確かめることは
重要な事です。

また、下を向いたり、立ち止まったりすることも
同じです。やみくもに前に進むだけではなく、今
自分がいる場所を確認し、これからどうするのか
を熟考することは、これから先を俯瞰するために
必要な事です。

徒競走のスタート前、「位置について、用意」の
瞬間、体は止まっていますが、全身に力を蓄え、
合図と同時に力を開放し、一瞬でトップスピード
に到達するように準備しています。

人の心の中も同じで、傍からは一見静かに動かな
いでいるように見えても、もしかしたら中では燃
えたぎる情熱や強い意思が渦巻いているかもしれ
ません。

前を向いて歩き続けていても、「何のために歩い
ているのか」「どこに向かって歩いているのか」が
分からなければ、途方に暮れていつしか道に迷っ
てしまうことでしょう。

前に進むのならば、今までの軌跡を確認し、「ど
こに向かっているのか」「なぜ進むのか」をしっか
りと意識することが大切です。時には立ち止まっ
て熟考し、進むべき道を俯瞰してみてください。
きっと新たな気づきが生まれる事でしょう。

昨年の溪流巻頭言では「溪流を形作るのは、啓
北商業高校に通う生徒の皆さんです。その時代時
代に高校生活を送った人たちが、大きな流れとな
って今の啓北商業高校を作り上げてきました」と
書きました。その時は、啓北商業高校で高校生活
を送る皆さんを水の流れに例えました。

水の流れは地形によって形を変えます。しかし、
皆さんは明確な目的意識を持って、自らの進むべ
き道を目指した流れです。周囲の影響を受けなが
らも、目的に向かって進む皆さんが、溪流となっ
て切り拓く未来は、その意思の積み重ねの先にあ
ります。

ときに立ち止まり、過去を顧み、傍からは静か
に見えても、その内部に熱いエネルギーを蓄えて、
自らを信じて歩いていきましょう。